

2017年7月
上越教育大学公開シンポジウム
「布に触れ、布に関わり、子どもは何を感じ、何を刻むのか」

手仕事のもつ可能性

昭和女子大学名誉教授

フリー刺繍作家

天野寛子

子どもの頃、人形を買ってもらえなかった。
人形を自分で作った



高度経済成長期以前は 生活は手仕事で成り立っていた

・ 手芸———家事・生活技術だった—

1。かつて家事は女性の時間を無限に奪った

2。創造性・慰め・心の整理作用も含まれていた

高度経済成長—家事の合理化、機械化、外部化、社会化のなかで、女性は男性と同様に働く時間を獲得し、経済的自立を目指し、それなりの時点まで達成した が、

最も合理化しにくい★子育て（しつけ・教育・生活訓練・愛情）★片付け仕事
★人間の生理的リズムと関わる部分だけが残った

・ 教育＝社会（企業・地域社会）教育、学校教育、**家族による教育**

● 手作業・手仕事という「手段」を通して、自分で会得させていたその手段を喪失した

身近な創造性の喜び、生活の工夫、自分の能力の実感の部分を忘れてしまった
（「だんだんとできるようになる」という実感、嬉しさ、自信）

手仕事：私にとってはフリー刺繍画

桜井一恵先生 和洋女子大 ⇒ ヴォーグ ⇒ 1977年 スエーデンの「ハンドアルベ
テイツ・ヴェンネル」に留学帰国後「アトリエKAZUE」主宰1978～ 千葉県市川市（本八幡）

★布きれと糸と針で絵を描くこと（アップリケの上から刺繍をする）

★何を、何んな感じを表現したいのか★

- 布：質感、色、古布、プリント布（各種模様）
- 糸：色、材質・太さ（毛糸、麻糸、木綿糸、織糸、布をほどいた糸、絹糸、
ミシン糸、ラメ糸、・・・）

★手仕事 ⇒ アートへ（実用とアートの間）

既成概念としての刺繍からの自由

図案、刺し方＝技法、テーマ

先生の模倣ではなくて、課題を自分で創作してこなす、徹底的に工夫する

★桜井先生の得意分野：ヨーロッパの街、ヨーロッパ特に北欧の街の風景、植
物

★桜井先生との出会い 1975年（先生がスエーデンに行かれる前）

東日本大震災 を 何故、刺繍に？

★何かしなければならぬのに何もできない自分の気持ちを落ち着かせたかった

- 大震災時は家（東京）に居ました
- TV、新聞・・・信じられない光景、山のように新聞の切り抜きがたまっていました。人々の悲しみ、哀しみ、怒り、恐怖、混乱、それらの集積
- 募金
- ボランティアに駆けつけるだけの体力はなく報道写真の切り抜きを刺繍、震災から3週間後 刺している時間＝追体験、鎮魂、不条理な怒り、祈り。
- 報道写真の切り抜きを刺繍、震災から3週間後 刺している時間＝追体験、鎮魂、不条理な怒り、祈り。

最初は ①自分の気持ちを落ち着けるために、

時間の経過とともに

②記憶に留めておくために

③自分のなかで風化させないための手段として

④作品数が増え、展示会を重ねると見て下さる人とともに記憶し続けるために。 5

新聞の報道写真をフリー刺繍で 東日本大震災①大津波 2011

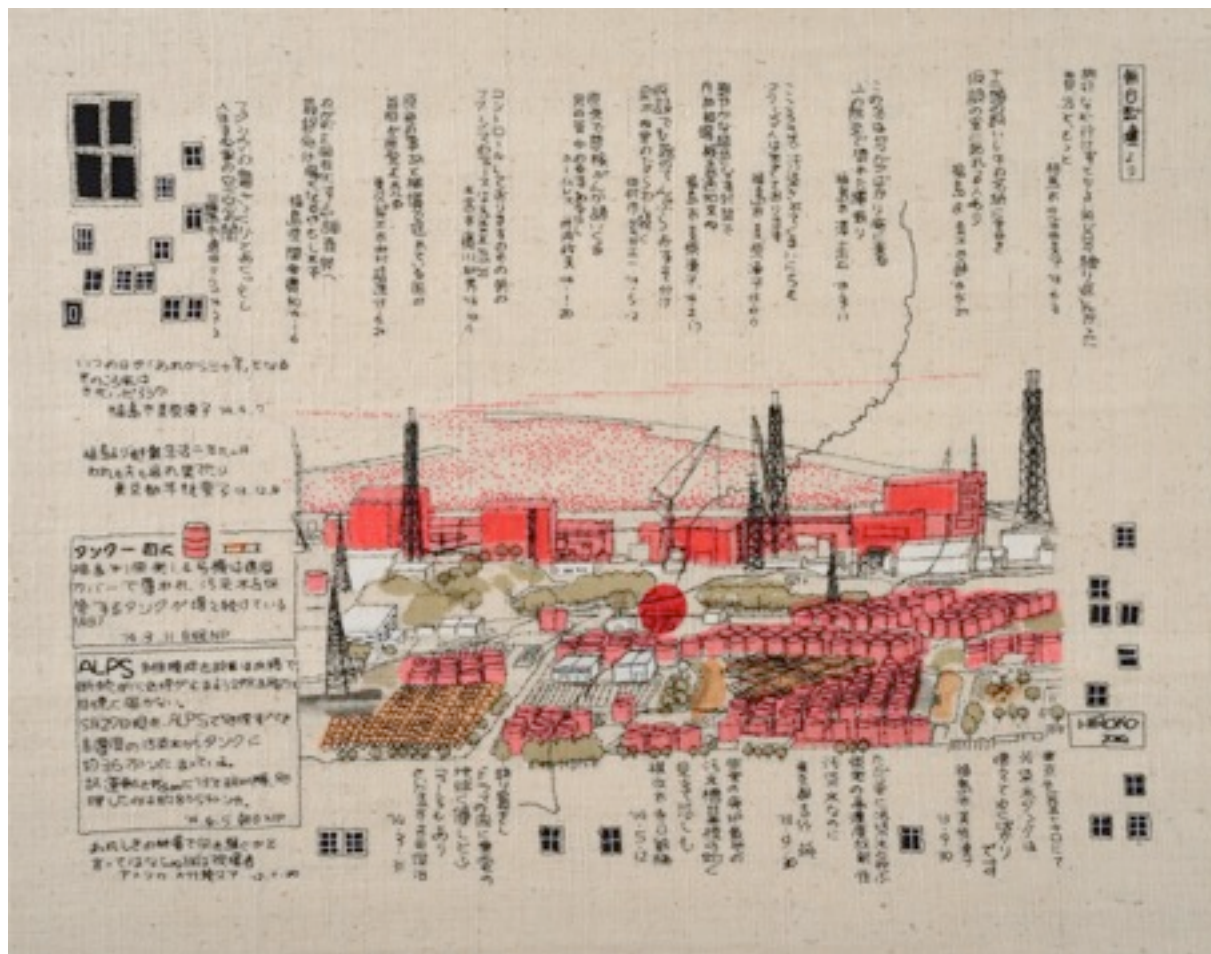


東日本大震災② 祈り

2011



東日本大震災⑥ 増え続ける 高濃度放射能汚染水タンク 2014



文字（和歌）を入れた メッセージ力が飛躍的にあがる

- 絵では表現しきれない気持ちを、人は「ことば」で表現する。

震災で破壊された生活を詠んだ一般人の和歌

夫呼べば夫の声する娘呼べば娘の声する閑上の海

須郷 柏 2012.1.16

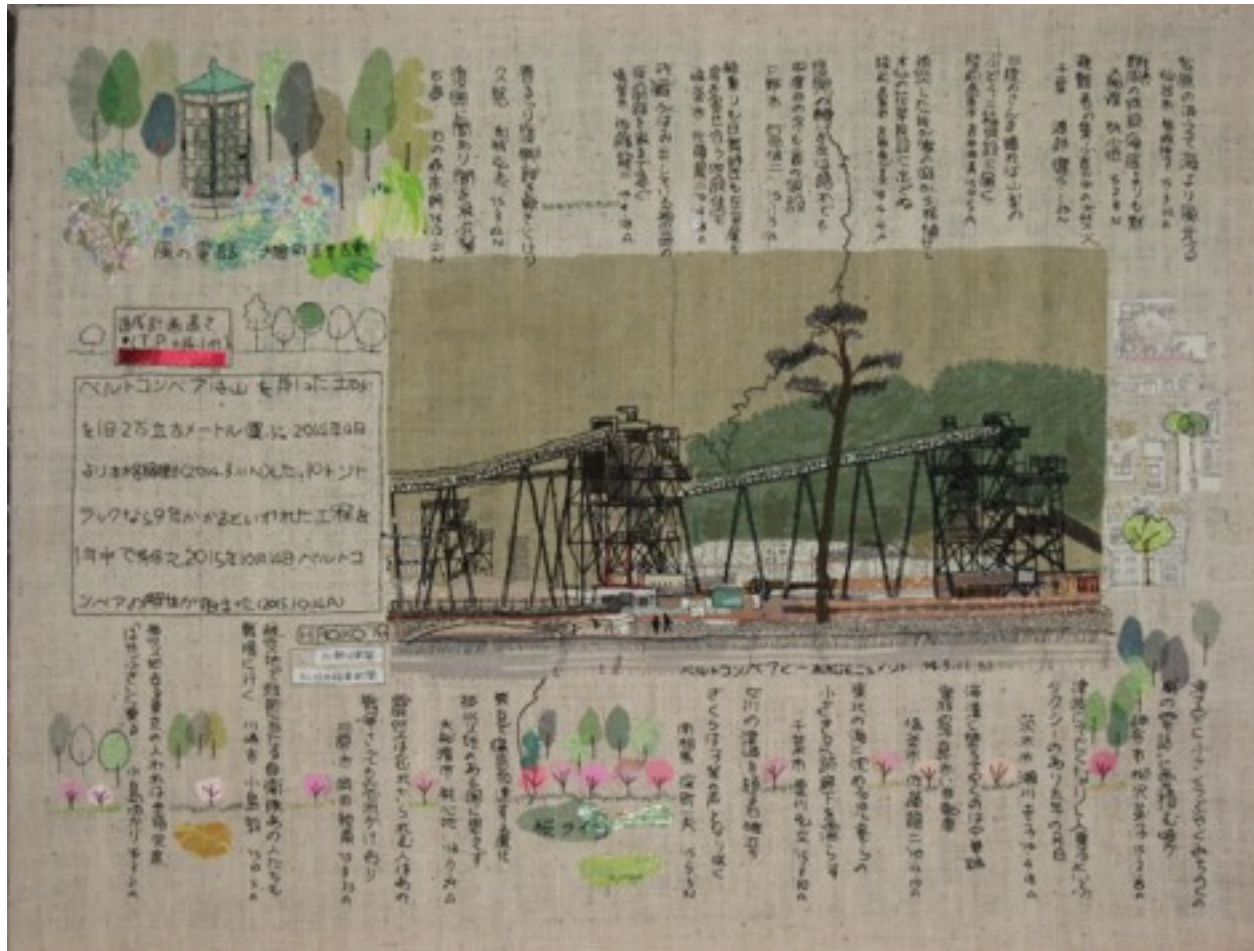
ぶしつけな問いにも静かに答えるは父母を波にさらわれし人

川野 公子 2011.4.10

絵と文字は補い合う⇒日本美術（絵画）の歴史のなかには多くの作品がある。『日本美術のことばと絵』（玉蟲敏子著角川選書）

東日本大震災（8）

—ベルトコンベア、桜ライン・風の電話—



「ししゅう高田松原プロジェクト」
20X20cmの「松」の手芸作品で
津波で攫われた7万本の松原を作ろう



□□ミで広がり 740枚集まりました



手仕事の可能性

—生活を豊かにする—



手仕事の可能性①

限界状態のとき手仕事は<人>を救う

- 佐藤忠良『つぶれた帽子』中公文庫

<シベリアー削る>

P.104~ 「捕虜生活のはじめの頃、比較的早く心身ともに弱り出し死んで行ったのは私どもの収容所では若い人が多かったように思う。(略) 私たちのように日用には何の役にも立たないものを描いたり、作ったりしているものでも、手に仕事をもったものの強さをしみじみと感じさせられた。大工さんでも左官屋さんでも職につかせられると、同じ配給のものを食べながら、しゃんとしてしまうのである。

こういう極限環境の中で面白いと思ったのは、話すこともなくなると、みんなが何かを削り出したことであった。自分で使うスプーンや配給たばこのパイプを作るのだができあがったスプーンは心なしかその人に似た形になるのが多かった。裸電球の下でペチ力を囲み黙々と削る後ろ姿を見ていると、「俺は生きているんだ！」と背中が叫んでいるようにさえ見えた。

小さいのやら大きいのやら、一人で幾つも幾つも作るのだった。ただ削っていたかったのだ。

★アメリカ、日系アメリカ人強制収容所で、手仕事作品を・・・・・・・・・・ということも¹⁴

手仕事の可能性②

手仕事による癒し

ししゅう高田松原プロジェクト

移動図書館でお会いしたある被災者の言葉

「『陸前高田はこんなに綺麗な町だったんだよ』と孫に教えられるように、いつか、刺繍してみたい」

20×20の布に松を刺して、流された7万本の松原を再現しよう
ワークショップでの被災者の言葉

「楽しかったこともあったんだな、って思い出したよ」

手仕事の可能性③

繋がることのできる

プロジェクト作品を通じて生まれた「繋がり」

- 陸前高田の被災者の方々（一緒につくったね）
- 「作品を私も作った」というつながり（日本全国、そして外国人も）
- 作品展を見に来て下さったの方々
- 被災者を支援している若者たち
- 絵を描くの方々（下絵を描いて下さった被災者・・・被災者でない画家も）
- 手芸をするの方々

手仕事の可能性④ 自分なりの工夫、自分なりの表現

(布・糸・針という制約のなかでの楽しみ)

- 布や糸は置いてみてイメージをつくっていくことができる
- 自分の思いや思い出を刺す＝比較できない。「このようにやりなさい」と言われたい 工夫をする
- 既成の上手/下手の評価の外に居られる
- 比較されることがない
- 生活のなかでの、この「小布・糸」を使って何かを作ってみたいという思いが実現しやすい
- 針・布・糸――感情が鎮まる（現役時代、仕事に伴ういらだちを手芸で紛らわしていた）
- やっていけば、上手くなって来る

＝手仕事の魅力＝

早く出来ないことが大事なのもかもしれない

手仕事の可能性⑤

手芸の場合はいつでも、どこでもできる

- 小さなスペース、短い時間、小さな道具で場所を問わず楽しむ
 - 私は、新幹線の中でも
- ★思い出のある洋服の布（子どもの、夫の、友人の、私の・・・）
- ★自分用の照明スタンドを買うこと。
- ★手芸用眼鏡を新調すること（・・・のために洋服を買うように）

クリエイティブな時間のある生活

(プロセスを楽しむーおしゃべりも含めて)

- 24時間のなかに、フリー刺繍をする時間（⇒手芸をする時間）があるということ
- リフォーム、既製品に付加価値をつける、創作する、繕う、意思表示する
- 生活のなかで、モノの見方が変わる（季節、木々・花々の表情、人々の姿、街、建物）
- 真似で入ってもいいけど、それは入口。
- 自分の感じているものを表現できるようになること。
- 表現されたものはその人そのもの

手仕事の可能性⑦

今の時代手芸をする＝希少価値

尊敬の眼差しでみられる

- 既製品を買うのが普通になって
- 手芸ができる人もしなくなっている

ししゅう「高田松原プロジェクト」のとき、「もう、何十年もやったことないし・・・」と言われた方も。

「できない」と思い込むようになっていく

「小学校以来、針なんてもったことない」

- そんな時代だからこそ

★希少価値、「世界で一つのもの」

昨今――ちょっとした手芸ブーム

手仕事の可能性⑧ 見てもらえる

手仕事＝世界に通じる

- 国内で（東京、三重、沖縄、大阪、京都、神戸、横浜長岡、陸前高田、常滑・・・20回近く）
- 2013年8月第8回ウラジオストクー日本ヴィジュアルアートビエンナーレ（震災シリーズ展示）
- 2015年12月ニューヨーク展
（中西繁絵画展の一部に招待展示）

どこでも、高い関心をもって見てもらえる。

「次の展示会」という締め切りをつくることで作品が増える。²¹

展示会場—真剣な表情で丁寧に見てくれた (ウラジオストク)



感想（ウラジオストク）

大震災を作品にしたことで非常に共感してくれた何かのニュースで作品を1つ見て、他の作品も見たくなり本日訪れました。このような作品を見たことがありません。驚くべき技術です。糸と布で出来た絵、それが融合することで微妙なニュアンスが生まれています。当時の日本のニュースを追っているかのように、とても生き生きと作品のなかで上手くまとめられており、共感することが出来ました。作家とビエンナーレ主催者に感謝します。

8月27日(2013) カシェエワ・スベトラーナ (No.41)

ニューヨーク展 お客様と



日本の「吊るし雛」を卒業論文にする イタリアからの短期留学生がやってきた



手仕事の可能性⑨

価値観を変えていく。ライフスタイルを変えていく

大量消費主義（使い捨て文化）から

ものを大切につかう生活へ。

使い捨てから<リサイクル、リユース、リフォーム>へ

小さい布も慈しむ生活へ

（小さい布で楽しめる）

人がモノのように扱われる受け身の生活から

自分の手を活用し「生活をつくる主体」に

『クラフツマン』

『作ることは考える事である』

リチャード・セネット 著 高橋勇夫 訳 筑摩書房

「現代の教育は反復学習を死ぬほど退屈なものとして恐れている。子どもたちを退屈させるのを恐れ、つねに違った刺激を与えようと熱心なあまり、賢明なる教師は型にはまったやり方を避けているのかもしれない。――しかしそうすることによってその教師は、自分自身にしっかりと植え付けられる実践（プラクティス）について学習し、さらにそれを自分たちの考えで調節するという経験を、子どもたちから奪っているのである。」 p.77

「受容力」 capability と 「稼ぎ能力」 ability の両方の能力が必要

絶望しないでいられること、悲惨さから立ち上がる力を生み出してくれること、自分自身で生活をゆたかに工夫して作っていくこと、楽しむこと、人と共感できること、人と繋がることができること、繰り返しの中から誰でもが持てる力

★生きるための能力

① 「受容力」 capability (マーサ・ヌスバウム、アマルティア・セン)

② 「稼ぎ能力」 ability の両方の能力が必要

有り難うございました

リチャード・セネットの 手仕事—意味は広い

『クラフツマン—作ることは考える事である—』

リチャード・セネット著 高橋勇夫訳 筑摩書房

この本での「手仕事＝クラフト」の範囲

ギルドの親方（6分類）：食べ物、宝石、金属、織
維と洋服、毛皮、建築

職人、技術者、音楽家、医者、モノ作りに携わる人
（原爆から食べ物の調理まで・・・）

『クラフツマン』から

- 「人間は自分たちが作るモノを通して自分自身について学ぶことができる」 (p.30)
- 「手は精神に開いた窓である」 (p.259)
- 「ほとんど誰でも、よいクラフツマンになることができる」 (p.453)
- クラフツマンは退屈すると手元にある道具で何か他のことができないものかと試しはじめる」 (p.462)
- クラフツマンの基本的能力：問題を具体化する能力、疑問を抱く能力、打開する能力 (p.467)

フリー刺繍と今の私の生活

- 家事（衣食住の家事労働）
- 健康・体力維持のためのウォーキング
- 新聞・読書（月1回の読書会 常連6名）
- パソコンに向かって（メール・face book、講演原稿等）
- 「ししゅう高田松原プロジェクト」関連の仕事
- 大学の同窓会関連の仕事
- フリー刺繍画作品づくり（展示会・そこから広がる新しい人間関係・付き合い）
- 新しく絵画勉強
- その他、アートビレッジ、映画「ハケン（派遣）」等

陸前高田、「みんなのたからもの ししゅう高田松原プロジェクト」



2011年9月 陸前高田



2011年9月NPOシャンテイ 移動図書館にボラ参加

伊藤セツ先生夫妻と参加



天野一プロジェクト年表

- ①2009年 滝沢村「うわのりんご園」上野かなえさん聞き取り調査
- ②2011年「東日本大震災」作品制作開始、9月NPOシャンティ移動図書館に参加（伊藤夫妻と）
- ③2012年6月「めぐ海」工房「小さなやさい屋さん」「よってったんせ」聞き取り調査（藤原りつさんの繋がり） モビリア（太田、粕谷さんと）⇒支援NPOのコーディネーター中西朝子さん「刺繍をされる人なんですね」
- ④2012年8月 モビリア 「松原」提案（田辺、粕谷さんと）
- ⑤2012年11月文化祭のとき作品を3点展示、関心を示して下さったのが被災者でもある熊谷芳正さん
- ⑥2013年3月 銀座彩波画廊で、「東日本大震災シリーズ作品」展示
- ⑦2013年6月 陸前高田を中心に被災地を車で。（伊藤夫妻と）モビリア訪問。
作品「高田松原ーそこで遊んだ日があったー」をもって
- ⑧2013年8月『画集 繋ぐ②ー東日本大震災ー』（ドメス出版）ししゅう高田松原プロジェクト公開
8月ウラジオストク第8回ビエンナーレ展示
- ⑨2013年11月プロジェクト作品第1号第2号京都から届く。
- ⑩2014年 陸前高田、菅原和さんより、プロジェクト作品用下絵提供される
- ⑪2014年2月「ししゅう松原プロジェクト」ワークショップをモビリアで（モビハハ・藤原りつ）
- ⑫2014年3月 モビリア仮設集会所で天野個展（プロジェクト作品29点待ち針留展示）
- ⑬2014年7月岩手県盛岡市、「盛久ギャラリー」で天野個展+別室で「プロジェクト作品」展示
- ⑭2014年10月陸前高田（⑭2015年1月陸前高田でワークショップ広田町・東部デイ・めぐ海）、大船渡でワークショップ、村田先生宅
- ⑮2014年11月高知県立美術館「翔」展と共同展、「高田松原プロジェクト」作品100点展示
- ⑯2014年12月陸前高田（小友、細根沢、・仮設住宅、小友コミセン）でワークショップ
- ⑰2015年1月陸前高田（モビリア、住田町、ペンション福田、村田先生宅）でワークショップ

年表続き

- ⑱2015年2月一ノ関千厩、水沢、紫波、盛岡市でワークショップ（中央公民館見学）
- ⑲2015年3月銀座「サロンドエス」にて天野個展（「大震災」シリーズ作品）
- ⑳2015年4月陸前高田市（まあまの家、女性リーダー会、村田先生宅）大船渡市でワークショップ
- 21 2015年5月東京丸の内OAZO「Walk with 東北」にプロジェクト作品（タピストリー4枚）展示
- 22 2015年5月大阪池田市Largo展（天野&プロジェクト展）
- 23 2015年6月北上、陸前高田市、川の駅横田、長部でワークショップ
- 24 2015年8月陸前高田市、女性会キャピタルホテルにてプロジェクト作品展示
- 25 2015年9月伊豆の国アートビレッジでワークショップ
- 26 2015年9月神戸市「コミスタこうべ」にて「天野&プロジェクト」展
- 27 2015年10月一ノ関曾慶地区、陸前高田（高田あすなる、竹駒、高田コミセン）でワークショップ
- 28 2015年11月陸前高田市芸術祭で高田コミュニティホールにプロジェクト作品展示、陸前高田市（コミ・ホール、菊池畳店、高田一中仮設住宅、モビリア）、大船渡（働く婦人の家）にてワークショップ
- 29 2015年12月天野震災シリーズ作品アメリカNY, TENRI cultural center に（招待作家として）展示
- 2015年12月31日第2次募集締め切り**
- 30 2015年12月～2016年2月 受け入れ作業（整型処理、ナンバリング、写真撮影、データ処理）、作品のタピストリーへの留め付け作業（陸前高田と東京で）
- 31 2016年2月「横浜市男女共同参画センター南」展（天野&プロジェクト730点=初めての全作品展）
- 32 2016年3月盛岡市盛岡中央公民館プロジェクト全作品展
- 33 2016年3月仙台市、藤崎展（天野&プロジェクト作品展）エルパーク、ニコンプラザにも展示
- 34 2016年3月京都、旧京都府庁舎展（天野個展&プロジェクト作品展）
- 35 2016年5月陸前高田市箱根山「伝承館」展、プロジェクト全作品展の後、タピストリー4枚ずつを展示

年表続き

36 2017 6月 常滑展 (天野・プロジェクト・さくらっ娘隊)

37 2017 7月 上越教育大展 (上越教育大と日本家庭科教育学会北陸地区会と共催)

なぜ「震災」関連を刺し続ける？

私の中での風化とのたたかい

- 東京で痛感加速する風化

被災地のある国に思えず

(大船渡市) 桃心地

2013年7月29日 朝日新聞

東京に住んでいるからこそ記憶し続けなければならないということもあります。記憶し続けるためには、方法を講じなければなりません。

大震災を記憶し続けるための具体的努力は、刺繍作品のテーマの一部に「震災」「フクシマ」をいれておくこと

東日本大震災被災者を陸前高田モビリアで支 援していた女性との出会い 中西朝子さん

- 2012年6月、モビリア仮設住民支援をして
いた＝「刺繍をする人ですね」
- みんなのたからもの「ししゅう高田松原プ
ロジェクト」実行委員代表

2016年4月～熊本、御船町被災者支援

被災者、陸前高田市民、みんなのたからもの実行委員と繋がって 2014,3



「ししゅう高田松原」づくりの 目的・願いは自立とつながり

1. 被災地の方々が、少しでもワークショップに出てくることで、雑談の時間が共有でき、高田松原という共通の思い出を「共有」しつづけられるように

他のイベントには関心がなくて、主体的参加が難しい人でも手芸、針をもつことなら主体的になれる人がいるかもしれないから

2. 被災地以外の人々が、東日本大震災を「過去のこと」としてしまわないで、記憶し続けることができるように

3. この作業を通じて被災者の方々が他所の地域の人たちとも交わるチャンスが生まれるように

4. この松原プロジェクトの企画で被災者の方々が再び交流を取り戻せるように

被災者の方々とのワークショップ



タピストリーに縫い合わせていく作業も実行委員と被災者・支援者有志
が行った



NY展 中西繁画伯（1995年阪神淡路大震災で建築物が破壊され、以来、「廃墟と再生」をテーマに建物を描く画家）に誘われて



モビハハによる タピストリー裏打ち・仕上げ作業



モビハハによるタピストリー裏打ち作業



モビハハによるタピストリー裏打ち作業

